

◇ 8月の天文暦 ◇

日時	記	事
6 7	上 弦	
8 1	立 秋	(太陽黄経 135°)
9 2	水 星	西方最大離角
19	月	最遠
14 11	望	
17 9		海王星留
21 19	下 弦	
23 16	処 暑	(太陽黄経 150°)
25 16	月	最近
82 12	朔	

☆ 原点めぐり ☆

日本経度の基点

日本の経緯度の原点のある麻布(本誌1月号, “原点めぐり”)において経緯度観測が始められたのは, この地に水路部が海軍観象台を設けた直後である。経度は1874年, 金星の日月通過観測に來日したチトマン等によって, 緯度は1876年に大伴(肝付)兼行によって観測された。1886年に水路部が定めた経度の値は, 翌年観象台がその機械や敷地等一切を東京大学に移管し東京天文台が創設された後も, わが国の経度時刻の基準として用いられた。

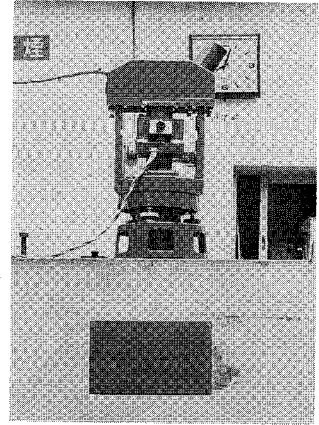
この経度の値を改訂するための観測が, 築地の水路部天測点を基準として, 中野徳郎等により1912~17年に行なわれた。これは, 築地-麻布, 築地-グアム島, 築地-長崎, 長崎-ウラジオストック, という4個の経度差観測である。つまりグリニジからアメリカ本土・グアム島経由の西まわりとグリニジからシベリア経由の東まわりの2種の経度を求めたのであり, 海底電線を使って, 築

地・グアム間および長崎・ウラジオストック間で時刻を比較した。

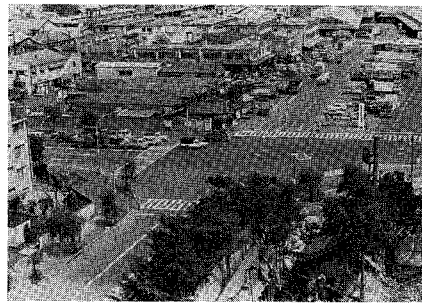
その結果は
西まわり(東経)
 $9^h 18^m 58^s 751 \pm 0^s 059$
東まわり(東経)
 $9^h 18^m 58^s 657 \pm 0^s 10$
であった。それで, この加重平均値
東経 $9^h 18^m 58^s 727$
 $= 139^\circ 44' 40.9''$

を以て, 東京天文台の経度とし, 国内の経度はすべてこの値を基準とすることが, 文部・海軍・陸軍の各大臣連名で1918年9月に告示され, 現在に至っている。理科年表の扉の裏面に標準経度として掲げられている値である。これは従来の東経に $10.4''$ を加えることになり, それまでの地図には一斉にこの改正が施こされた。

この水路部の観測点は, 昭和初期に東京市の区画整理で道路となった。経緯度の値は構内に新設された天測室に移されたが, ここの1965年に東京都に割譲されたので, 構内西隅に移り, 現在も経緯度の観測が行なわれている。
(水路部 進士 晃)



現在の水路部観測点



水路部観測点跡

